

# あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第57号

2021年11月15日発行

## ～野菜の分類(植物学)クイズ～

答は、本ページの下にあります

野菜の植物学的な分類は、連作障害を防ぐなど栽培計画に役立ちます。  
同じ分類に属する野菜の組み合わせはどれでしょう。

① ふき



② セロリ



③ かぼちゃ



④ 人参



⑤ ごぼう



⑥ にがうり



<答>

① ふきと⑤ごぼう：キク科、 ②セロリと④人参：セリ科、 ③かぼちゃと⑥にがうり：ウリ科

# 1. 我孫子市役所農政課のご紹介

## (1) 我孫子市役所農政課のご紹介

こんにちは！我孫子市役所農政課の地産地消担当の西田です。本協議会では総務・会計を担当させていただいております。今回は、農政課についてご紹介させていただきます。



《地産地消担当：左から景山・西田・伊藤》

## (2) 農政課ってどんなところ？

農政課は、我孫子市の農業を盛んにすべく、農業者向けの整備や支援を行っている部署です。水の館3階に事務所があり、「地産地消担当」「農業振興担当」の2担当、合わせて13名で業務を行っています。本協議会の役員には、副会長に農政課長、総務・会計に「地産地消担当」から選出されていますので、皆さまとは「地産地消担当」が関わる機会が多いかと思えます。農業改良普及員という農業の専門家も所属していますので、農業者向けに栽培の技術指導などを行っています。

## (3) 具体的には何をしているの？

農政課の事業の中で、本協議会の活動と繋がる内容をご紹介します。

### ◆あびこ型「地産地消」推進協議会の充実

農政課は協議会の構成員でもあり、市民と協働となり、共に「地産地消」事業を推進しています。月に1度の運営委員会や学校給食関連の会議の参加、ちびっ子餅つき大会や流しそうめんなどイベント時のサポート、援農ボランティア養成講座の参加など、様々な場に関わっています。また、市として本協議会の事業経費の負担を行っています。

### ◆エコ農産物の推進

化学合成農薬や化学肥料の使用を減らした農産物の栽培を推進するために、市として『ちばエコ農産認証の取得支援』や『あびこエコ農産物の運用』を行っています。『あびこエコ農産物』は昨年の会報でご紹介しましたが、エコ農産物の栽培に取り組む農業者の裾野を広げるために、千葉県が定めた農薬や肥料の基準を20%以上削減した農産物を市が『あびこエコ農産物』として認証しており、あびこん出荷農家を中心に、市内62農家が取組んでいます。

また、現在、本協議会にもご協力いただき、あびこエコ推進キャンペーンを実施しています。認証された農産物に貼ってある『あびこエコシール』を集めて応募すると、当選者にお米や野菜をプレゼントする企画です。皆さまも、是非ご応募ください。

今後も、「エコ農産物普及推進部会」を中心に本協議会と共に『あびこエコ農産物』に取り組む農家の拡大と市民への普及を推進していければと思っています。



《キャンペーン商品とあびこエコシールのデザイン》



#### ◆農業拠点施設維持管理事業

水の館1階にある農産物直売所あびこんやレストラン米舞亭の管理を行っています。我孫子の農業のハブとなる拠点施設として、市民の方が身近に、安全・安心で新鮮な我孫子産農産物に出会える場となっています。我孫子市の農家さんが集まり設立した株式会社あびベジが運営しており、体験農園事業や学校や保育園などでの食育活動も行っています。また、市内の小中学校には、あびこ産野菜の日という「地元の野菜を味わえる」給食の日が月に2度設定されていて、主にあびこんから地元農産物を供給しています。朝早くから「学校給食支援部会」のボランティアの方に学校へ食材を搬送していただいています。

今回ご紹介したのは農政課業務の一部ですが、農業者支援以外にも「新規就農者の支援」や「市民農園の管理」なども行っていますので、より農業に携わりたいとご興味のある方は農政課までお問合せください。今後も皆様と共に「あびこの地産地消」を推進していきますので、ご協力いただけますようお願いいたします。

## 2. 第18期養成講座

まず初めに、4度目の緊急事態宣言下でも援農ボランティア活動を含め、あびこ型”地産地消“推進協議会の活動にご協力頂きましたこと、そして農政課からのサポートに感謝いたします。

皆さまのご尽力のおかげで、今年も第18期援農ボランティア養成講座を実施する事が出来ました。今回は体験希望者2名を加え、新たに応募頂いた10名を加えた12名で実施することになりました。講座の予定は座学1回・実習3回を予定しています。

今年の参加者も20～70代と広い年齢層からの応募があり、参加理由としては“台風時に水の入ってしまった農地をみて”“大学の実技研修の追加として”家庭菜園のため“など様々なきっかけで参加されています。

初回研修は、原田農園でのトマト下葉かきでした。原田さんから作業に関して丁寧な説明をいただき作業スタート。2人1組になり、交代で作業を進めました。皆さん慣れない姿勢での作業に苦労されていましたが、最後まで全員で初回実習を終えることができました。

参加者の皆さまには、「自分のペースでそして何より楽しんで作業をして欲しい。」ということをお伝えしました。全員けがなどなく、無事に修了式に参加頂ければと思います。



《開講式と座学の様子》



《農園での研修》

### 3. 農業体験ツアー

#### 地元「あびこん」の食と農を再発見！ ～あびこんで過ごす体験交流～

台風一過の晴れ上がった10月2日（土）に農産物直売所あびこんで農業体験交流が行われました。

「あびこん」正面に朝8時45分に受付・集合し、農業体験ツアーのスケジュール説明・コロナ禍・熱中症対策を受けました。まずは「あびこん」のバックヤード及び店内に下ろし配荷状況の説明・見学をしました。

いよいよ農業体験農地までは手賀沼の散策路を歩いて行きます、途中には散策者や自転車がありますので注意しながらの移動しました。散策路では木々の様子、鳥の鳴き声、草花のにおい、空の雲の形を自然観察しながら歩きました。散策路脇の枯れ木の上にカマキリが又別の枯れ木に「サルノコシカケ」を見つけました。

現地では農家の人にまず大根の種まきの蒔き方の説明を受け一人ずつ細かい種子を分けてもらい、指で一粒ずつ指でつまみ、穴の中に3粒ずつ蒔いて、最後にそっと土をかぶせてやりました。次は長いサツマイモと落花生の収穫です、まずサツマイモのつるを堀上げるとお子さんの背より高いつるでした。落花生は引っ張って堀上げ、根に付いた実を一粒ずつ剥がし収穫しました。

お昼は我孫子産の新米のお弁当を芝生の上で頂きました。お弁当の後は水の館3階の研修室でクイズ大会が有り正解者にはプレゼントが有りました。プラネタリウムの鑑賞後はアンケートを提出して、「あびこん」で買い物をし2時00分には解散しました。

農業体験ツアーの企画・実施：(株) 農協観光、

協力：あびこん

参加者：子ども7人 大人8人



《朝のミーティング》



《大根のタネ蒔き》



《収穫後に全員で記念撮影》



## 4. 受け入れ農家紹介

### ◆阿曾 義弘さん（我孫子市古戸）

私の家は代々農家を営んでおり、祖父の代にコメ、野菜中心の栽培から当時まだ珍しかった切り花を中心とした栽培に切り替えました。チューリップ、ランタンキュラスなどいろいろな花を栽培してきましたが、25年ほど前からスプレームを主に育てています。今ではスプレームをメインとして、ひまわりやアスターなど季節に合わせた切り花を栽培しています。

主品目であるスプレームは海外で品種改良された枝分かれした小型の菊です。よく見られる白や黄色以外にも赤やピンク、オレンジなどたくさん色があり、花の形や大きさも様々な種類があります。日本ではお葬式などの印象が強いとは思いますが、海外ではフラワーアレンジメントや結婚式の花束など広く使われています。

今ビニールハウスの中では1年を通して10種類ほどの品種を栽培し市場へ出荷したり、数本束になったものをあびこんなど市内の直売所で販売しています。

私は中学生の時に家業を継ぐことを決心し、高校、大学で農業を学びました。大学卒業後本格的に農業を手伝い始めました。はじめはわからないことも多く親から様々なことを勉強し、また同じ切り花農家のかたと情報交換しつつ経験を積み、3年ほど前から親から農業を継ぎました。現在では少しでも品質のいい花を栽培するために試行錯誤しながら、ボランティアさんたちの力も借りつつ、夫婦二人三脚で頑張っています。



### ◆荒井茂夫さん（我孫子市岡発戸）

荒井茂夫さんは岡発戸の台地にビニールハウスと露地で主に野菜を栽培しています。田んぼでは稲を今年も栽培しました。お住まいは一段低い敷地にあり、今は二つ違いの奥様令子さんと二人で暮らしています。

農業は何代も前から行っていて、若い時に菩提寺に行き先祖を調べたがお寺自身が昔火事に会い古い書き物は消失してしまっていた。ただ4代・5代は間違いなく農業を続けている家のような。荒井さんは長男なので18才から親に言われるまでも無くに農業を継いでいる。

22才の頃にこの辺では最初にビニールハウスを建て野菜栽培を始めた。そのうちにビニールハウスを建てる仲間が出来、ビニール張りなどを協同でやるようになった。最初はビニールハウスでトマトを栽培していたが、スプレーキクを始めたが、景気が悪くなり外国から安い花が入るようになり、花栽培が難しくなったので少しずつ転換していった。今は野菜中心（トマトなど）に栽培している。最近ではトマトを有機栽培で完熟させて出荷している。

身体で最近気を付けていることは、しばらく前に一時足（ひざ）が痛くなり、医者に行ったりして治療したが治らないので人に聞いて、体育館でマシントレーニングにしばらく通ったら大分楽になってきた。今は気を付けて歩くにしても速足で歩くように心掛けている。



昔は映画が好きで我孫子に「銀映」と言う映画館がありよく通った。東映の映画が始まる時の「波が岩に砕ける」場面が好きで、時代劇の東映の俳優（中村錦之助、大川橋蔵など）のファンだった。今は地産地消でも受け入れ農家が減少していると聞いているので心配している。



《ビニールハウスと手賀沼揚水タンク》

## 5. 市民のチカラまつり2021

“2021年度の市民のチカラまつり”は我孫子市内の45団体が作る「まちづくり交流イベント」です。あびこ型「地産地消」推進協議会は展示部門で参加しました。提出したA4ポスターを事務局でA3・A1に拡大し展示しました。



### ・展示期間・場所：

9月14日～26日 アビスタストリート

9月15日～26日 けやきプラザ第1ギャラリー

10月2日～31日 ふうさの風

### ・地産地消のテーマ：「つづけて行きます 地産地消」

地産地消の効果：○環境への貢献と消費者の利点を揚げアピール致しました。

・今年も昨年同様にコロナ禍のため展示に関しては展示するのみに成り説明者はおりませんでした。

・会場が一カ所増え布佐の「ふうさの風（布佐北近隣センター）」で行われました。

## 6. 遠藤初代会長の逝去 お知らせ

当協議会 初代会長を務められました遠藤織太郎氏が去る10月22日ご逝去されました。遠藤織太郎氏は当協議会の設立から初期運営まで大変なご尽力をされました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。なお、葬儀は家族葬にて執り行われました。



あびこ型「地産地消」推進協議会 代表（＝会長）

平成16年～平成21年

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9:00～17:00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail [info@abiko-chisan.com](mailto:info@abiko-chisan.com) HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

